

A群抗原保有の *S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis* を分離した一例

◎増田 直人<sup>1)</sup>、中村 加奈子<sup>1)</sup>、西濱 沙都子<sup>1)</sup>、石黒 千晶<sup>1)</sup>、辻 寿美<sup>1)</sup>  
伊勢赤十字病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) は *S. pyogenes* と同様に劇症型レンサ球菌感染症 (STSS) を引き起こす細菌として近年問題視されている。一般的にSDSEはLancefield血清型ではC及びG群に型別され、バシトラシン耐性、PYR試験陰性、*S. pyogenes*はLancefield血清型ではA群に型別され、バシトラシン感性、PYR試験陽性といわれているが、SDSEの中でもA群抗原を保有する菌株が存在することも報告されている。今回、我々は関節液培養からLancefield血清型A群、バシトラシン感性のSDSEを経験したので報告する。

## 【症例】

50代女性。自宅で転倒して動けない状態であり、救急搬送となった。右膝関節部腫脹、発赤、熱感あり、穿刺で膿性の滑液包内容物が採取され、培養検査を行った。

## 【細菌学的検査】

Gram染色にて7~8連のレンサ球菌をみとめた。関節液を35°C、5%CO<sub>2</sub>培養を一晩行い、β溶血性レンサ球菌を疑う形態のグラム陽性球菌の発育を認めた。ストレプトコッカス群別キット「ユニブルー」(関東化学株式会社)によるLancefield血清型別を実施したところA群に凝集を認めた。そのため、バシトラシンディスク(日水製薬株式会社)による阻止円の有無の確認とPYR試験(イワキ株式会社)を行ったところバシトラシンディスクに阻止円を認めたが、PYR試験は陰性であった。菌種同定は微生物分類同定分析装置MALDI Biotyper(ブルカー・ジャパン株式会社)で実施し、*S. dysgalactiae* (Score Value 2.17) と同定された。

同定菌名とLancefield血清型、バシトラシンの結果が一致しないため、VITEK2(バイオメリュー・ジャパン)とrapid ID 32 STREP(バイオメリュー・ジャパン)による同定も実施した。ともにSDSEと同定されたため、臨床へSDSEと結果を報告した。感受性結果はペニシリン系、セファロスポリン系など良好な結果であった。

## 【考察・まとめ】

一般的にSTSSを引き起こす *S. pyogenes* やSDSEは病態の進行が急激である。数十時間で急性腎不全、急性呼吸器症候群、播種性血管内凝固症候群などを引き起こし、結果として全身状態が悪化し死に至る。その死亡率は30~70%程度と非常に高いと報告されているため、β溶血性レンサ球菌が生育した際は、迅速に結果報告する必要がある。Lancefield血清型A群は *S. pyogenes* と推定されることが多いが、SDSEの中にもA群に群別され、バシトラシン陽性となる株が存在することを念頭におく必要がある。日常検査において、β溶血性レンサ球菌はLancefield血清型別だけでなく、PYR試験、バシトラシン試験等を効果的に使用し、生化学的性状を確認する必要があると考えられた。

連絡先:0596-28-2171 (内線 1070)